

<第140号>

令和7年2月3日発行

少年センターだより

可児市役所 地域協働課内 ☎ 62-1111(内線 2116)

『青パト』を知っていますか？



1. 『青パト』とは
…青色の回転灯を乗せたパトロール車です(写真参照)。

2. 何をしてるのか…防犯のための市内巡回。青少年への声掛けや児童・生徒の登下校の見守りです。

3. 誰が運行してるのか…24人の可児市青少年育成推進員・67人の各地区青少年育成推進員補導部の方々、市少年センター事務局。夏休みには市内小中PTA会長も同乗。

4. いつ(何時)運行しているのか…朝・昼・薄暮・夜。ほぼ毎日、このいずれかの時間帯で市内を巡回しています。

5. どこを走ってるのか…学校・駅・公園・地区センター・商業施設をはじめ、市内全域を対象としています。

(桜ヶ丘・帷子地区は、独自に『青パト』を運行しています)

みなさんに支えられて、『青パト』は運行されています

日頃、『青パト』の運行にご尽力いただいている可児市青少年育成推進員・各地区青少年育成推進員補導部のみなさんに改めて感謝申し上げます。

可児市は沢山の市民にご協力いただいて『青パト』が運行されています。しかし、これは決して当たり前のことではありません。自治体によっては、市民からここまでの協力を得ることができないからです。『青パト』を支えてくださっているみなさんは、可児市の財産と言っても過言ではないでしょう。

可児市青少年育成推進委員・各地区青少年育成推進委員補導部の方々、そして市民のみなさん、これからも『青パト』をどうぞよろしくお願いいたします。

11月の岐阜県『秋のこどもまんなか月間』にちなんで可児市では…

1. 街頭啓発を実施～可児工高・帝京可児中高から生徒さんも参加

11月3日をはじめ、可児市内各所において可児市・各地区青少年育成推進員、各地区関係者のみなさんが中心となって、青少年健全育成への協力を訴える街頭啓発が行われました。

3日のドン・キホーテUNY可児店会場では、可児工業高校MSリーダーズのみなさんが「青少年の健全育成にご協力をお願いします！」と元気よく呼びかけてくれました。

また同日、桜ヶ丘地区センター会場でも、帝京可児中学高校MS(MSJ)リーダーズのみなさんが地区センターまつりのなか啓発を行ってくれました。

2. 『可児市青少年育成シンポジウム』を開催

11月23日、可児市文化創造センターにおいて可児市青少年育成市民会議と可児市PTA連合会共催で『可児市青少年育成シンポジウム』が開かれました。

当日はそのなかで『わが家の宝物』作文・標語(可児市青少年育成市民会議主催)優秀賞、『家庭の日』啓発図画ポスター(岐阜県主催)県入選作品の表彰が行われました。

メイン講演は、渋谷幸靖(NPO法人陽和理事長)さんを講師にお招きし、『子どもとのかかわり方』と題して行っていただきました。「母子家庭で育った私は、10代のころから親に迷惑をかけ、非行を繰り返してきました。自分の歩んできた失敗だらけの経験を生かして、子どもたちが私と同じ道を歩まないように道案内できたらと強く思っています」と渋谷さん。お話からは終始、苦しむ子どもたちを何とかしたい、そのためにも多くの人に彼らの本当の姿を知ってほしいとの渋谷さんの想いが伝わってきました。

渋谷さんや子どもたちに興味を持たれた方は、ぜひSNSで検索してみてください。

《表彰されたみなさん》

◎『家庭の日』啓発図画ポスター入選

帷子小学校2年・久保田桜咲くらさん

今渡北小学校5年・河合響太朗さん

◎『わが家の宝物』作文優秀賞

『ぼくのおねえちゃん』 東明小学校1年・岡村柊希さん

『私のルーツ』 帝京可児小学校4年・足立慶子さん

『朝ごはんの時間』	土田小学校 6 年・坂本峻平さん
『思い出のアルバム』	帝京可児中学校 1 年・森高咲羽さん
『あの頃のランドセル』	帝京可児中学校 1 年・熊倉莉流さん
『わが家の宝物』	東可児中学校 3 年・伊藤奏音さん

◎『わが家の宝物』標語優秀賞

いってきます 家族の笑顔 僕のお守り

東明小学校 4 年・神谷理央さん

おこっても 助けてくれる パパとママ

東明小学校 4 年・日比野繕さん

家ぞく言う。ぜったいできる。やれる子だ。

土田小学校 5 年・田口乃愛さん

【『青少年シンポジウム』当日のアンケートより】

- ・可児市の子ども達が頑張っている姿が見られてよかった。
- ・現在の子どもたちの様子を考える良い機会になりました。我々大人たちも子どもたちのより良い生活を支えるために何かできないかを立ち止まって考えさせられる機会となりました。
- ・ニュース等で犯罪をする若者について知ることがあり、その若者たちに批判的な感情しか抱けなかったが、実はその若者たちにも背景があり、その背景を知り、助けてあげる大人が必要だと改めて感じた。
- ・(講師の)先生がおっしゃっていた「子どもの年齢が上がるにつれて(親が子を)ほめることが減る」と聞いて、確かにそうだな…と痛感しました。何か一つでもほめていこうと思います。
- ・まさに今、娘が非行中なので、すべての言葉がささりました。
- ・まずは自分の子どもとのかかわり方を変えてみようと考えのきっかけになりました。
- ・間違った道を選んでしまっている人に対しても社会が見守り続けることが必要なんですね。

3. 「家庭のぬくもり」図画・作文・標語作品展、開催

1 月 10 日～22 日、広見地区センターにおいて『家庭のぬくもり』図画・作文・標語作品展が開かれました。

これは、『家庭の日』啓発図画ポスター、『わが家の宝物』作文・標語、それぞれの入選作品の展示会です。また、併せて作られた『わが家の宝物』作文・標語作品第 24 集も展示されました。この作品集は市立図書館(桜ヶ丘・帷子分館含む)・市立小中学校図書館・市役所地域協働課で展示中です。

～『青パト』から見たこと～

「被害者かもしれない」という視点

「彼らは加害者である前に、被害者かもしれない」。これは少年の非行や犯罪に向き合うときに大切な視点だと言われます。『青少年育成シンポジウム』の講師・渋谷幸靖さんも同様のことをお話しされています。渋谷さんのお話を聴かれた方のなかには、あの少年たちのことを思い浮かべた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。昨年6月、新聞でも報道された「可児駅前で荒れる少年たち」です。

彼らのなかには家庭環境に恵まれない子も少なくないそうです。親などから虐待を疑われるケースもあるといいます。時に彼らは傍若無人に振る舞い、大人でも近寄り難い存在です。そんな彼らですが、ほとんどが未成年です。親や家族からたっぷりの愛情が注がれていてもおかしくない年頃。もし、家庭で放っておかれ、暴言を浴び、暴力を振るわれていたら、どれだけ辛いかは想像に難くありません。親自身も同じような子ども時代を過ごしている例もあり、問題の根深さがわかります。

「問題行動を起こす少年には必ず背景がある」。これも渋谷さんの言葉。

駅前で荒れ、市民に迷惑をかける彼らは広義の「加害者」です。しかし、彼らの背景に思いを巡らせると駅前では見られない彼らの別の顔も浮かび上がってきます。「被害者」の顔です。

自戒を込めて。彼らの持つ、そのどちらの顔も見落としてはなりません。

最初の一步を踏み出すのは本人(子ども)とは限りません

《岐阜県青少年 SOS センター》

電話：0120-247-505 メール：s-soudan@govt.pref.gifu.jp

《岐阜県警察少年サポートセンター(ヤングテレホンコーナー)》

電話：0120-783-800 メール：gifu.young.783800@ezweb.ne.jp

《岐阜県若者サポートステーション》

電話：058-216-0125 メール：gifusapo@icds.jp

《可児市少年センター相談窓口》

電話：62-1111(内線 2116) メール：seisyonensoudan@city.kani.lg.jp

※いずれの窓口も、保護者の方からのご相談も受け付けています